

「保険の保険」戦略について

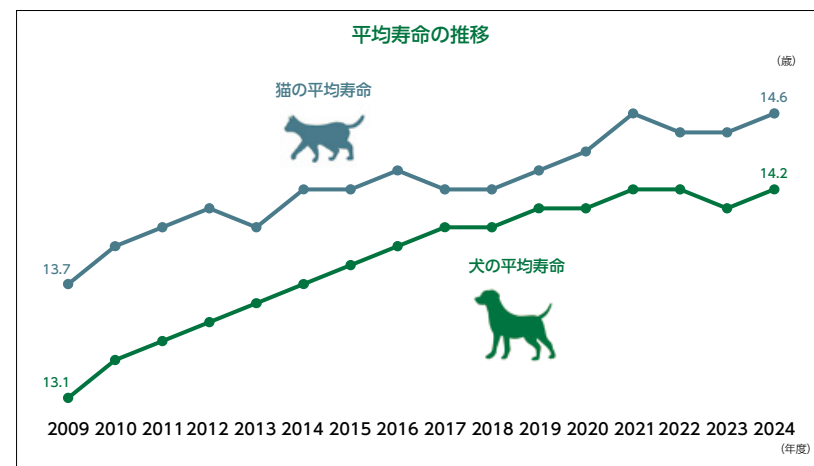
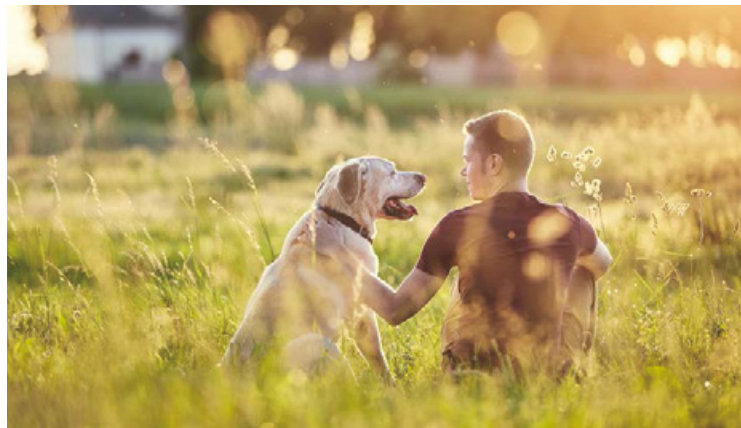
①ペット保険の成長と構造的リスクへの課題

ペット保険市場は、今後も成長が期待される市場です。

科学技術の進化は人々の生活を豊かにする一方で、人と人との接点を希薄化させ得る側面も指摘されています。そのような中で、ペットは人々に無償の愛と情緒的な安定をもたらし、我々の「心の発電所」として社会構造的な役割を担っていると考えています。こうした価値の高まりを背景に、どうぶつは今や家族の一員として位置付けられ、その存在意義はますます大きくなっています。

科学技術の進化は動物医療にも大きな変化をもたらしています。高度医療の発展により、これまで治療が困難だった病気にも新たな選択肢が生まれ、どうぶつの寿命は延伸しています。

一方で、長寿化や高度医療の発展による医療費の上昇は、ペット保険に新たな課題をもたらしています。アニコムグループは、こうした構造的なリスクを的確に捉え、予防から高度医療に至る取組みを通じて、どうぶつと飼い主さまの安心を持続的に支える体制の構築を進めています。



※アニコム家庭どうぶつ白書2025より引用
※2024年度は2025年4月1日～2025年12月31日における実績値にて算出

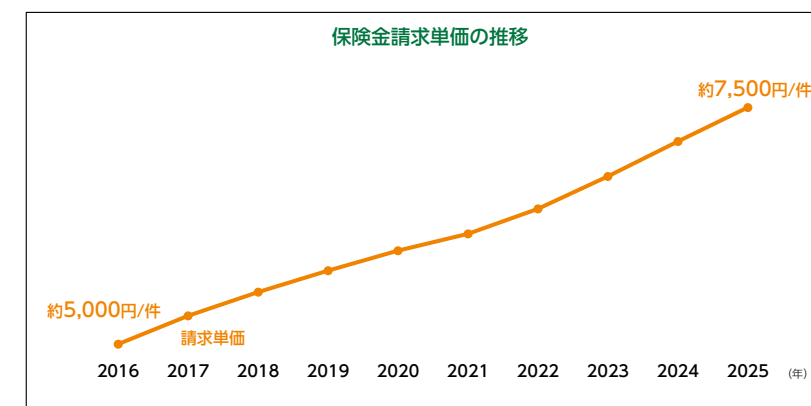


②最大のリスクは、病気ではなく医療技術の進化である

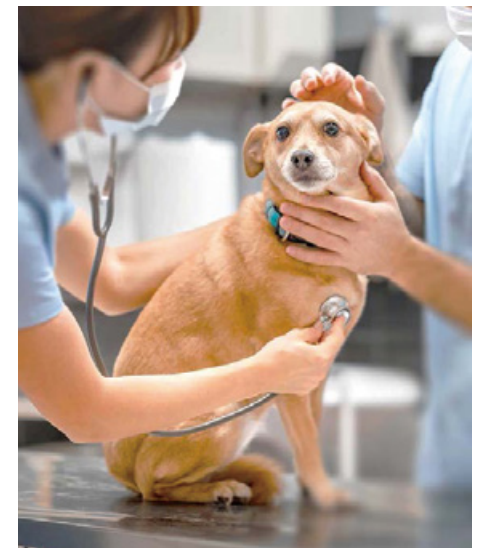
一般的に、科学技術の進化は保険事業にプラスに働きます。自動車保険や火災保険では、事故や災害のリスクが減ることで、保険金の支払いが減少します。

一方で、ペット保険を含む医療保険では、医療技術の進化によって救える命や選べる治療が増え、医療の選択肢は大きく広がっています。

医療の発展は社会にとって望ましいことですが、高度な治療が普及することで医療費が上昇し、保険金の支払いも増加するため、ペット保険業界は構造的リスクに直面しています。



※アニコム損保請求データより算出



保険2.0 ～病気の予防～

犬や猫は、慢性腎臓病や心疾患、さらにはがんなど、人では高齢期に多く見られる疾患を若齢から発症します。しかし、人のように過度の飲酒や喫煙といった生活習慣はありません。また、多くの犬や猫は総合栄養食を摂取していることから、生活習慣の乱れだけでは、若齢からこれらの病気を発症する理由を十分に説明することはできません。

①腸内細菌叢の多様性

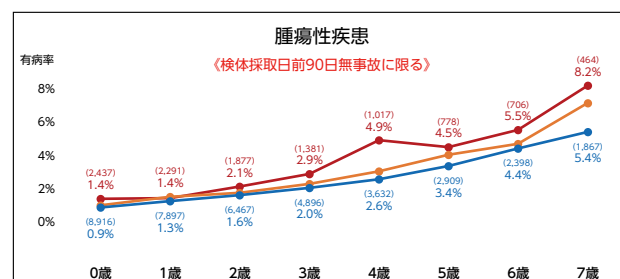
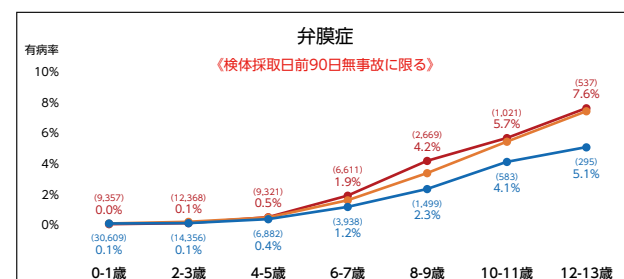
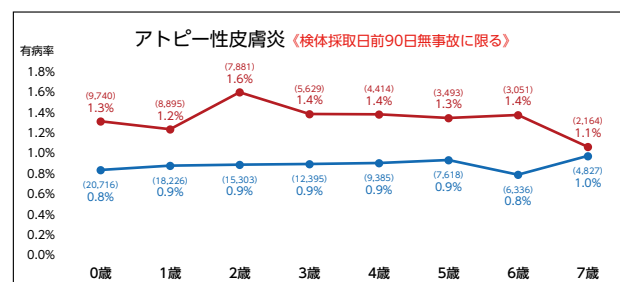
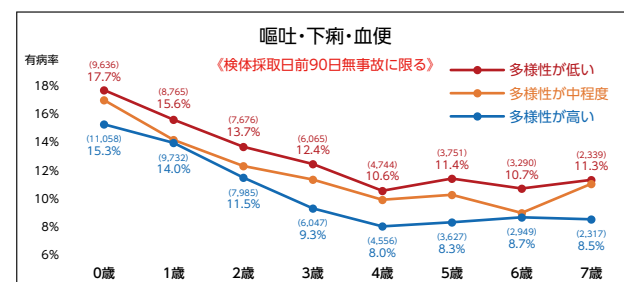
アニコムグループは、若齢からさまざまな疾患を発症する背景には、疾患ごとに異なる原因のみならず、共通する要因が存在する可能性があるのではないかという仮説のもと、犬約60万検体、猫約22万検体に及ぶ腸内細菌叢データを分析してきました。その結果、腸内細菌叢の多様性が低い群ほど、幅広い疾患において有病率が高い傾向が確認されました。

その背景には、免疫の仕組みが関係している可能性があると考えています。

消化管内には極めて多くの微生物が存在していますが、それらすべてを排除し続けることはできません。免疫は、こうした微生物のうち自身に悪影響を与えない細菌などを受け入れながら、健康な免疫環境を維持しています。

言い換えれば、免疫とは「敵」と戦う仕組みであると同時に、「味方」を識別し共存する仕組みでもあります。

アニコムグループでは、こうした「味方」と共存する免疫の働きが、多様な腸内細菌を受け入れる力につながっていると考えています。そして、この力、すなわち腸内細菌叢に対する寛容性は、免疫が健全に機能しているかを示す重要な指標の一つになり得ると考えています。



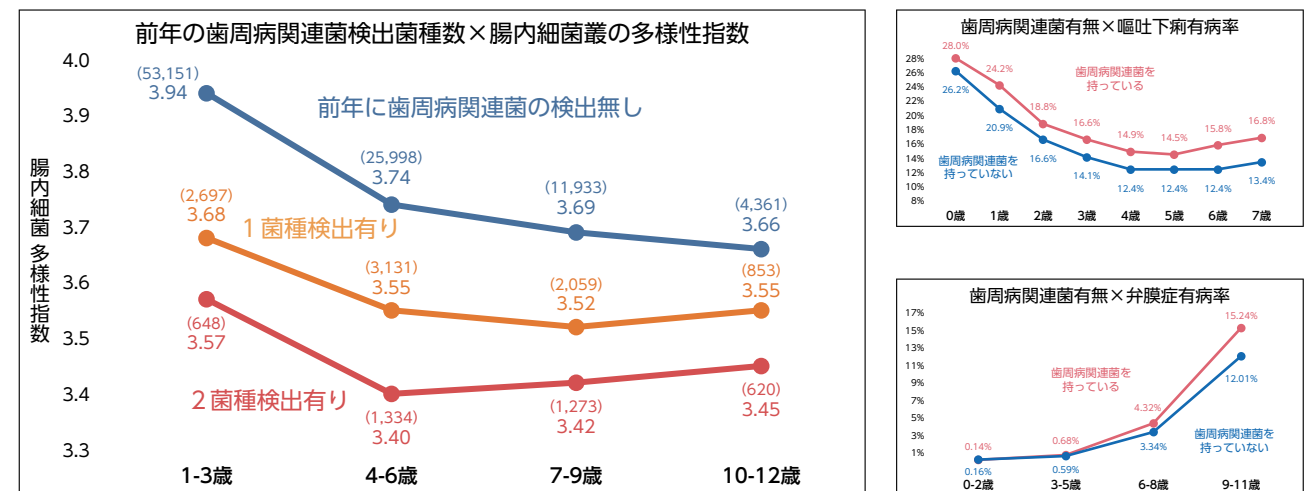
■条件: どうぶつ健活を2018年12月～2023年12月に実施した犬の保険契約のうち、2021年3月～2023年12月に始期を迎える契約が対象。
※契約件数が1,000件以上ある品種に限る

②歯周病関連菌による影響

また、アニコムグループは、腸内細菌叢の多様性を低下させる要因の一つとして、歯周病関連菌に着目しています。

分析の結果、すべての年齢帯において、歯周病関連菌が検出された群では、腸内細菌叢の多様性が低い傾向が確認されました。また、検出される歯周病関連菌の種類が多いほど、その傾向はより顕著となりました。

さらに、歯周病関連菌は、嘔吐や下痢などの身近な疾患だけでなく、弁膜症や慢性腎臓病、腫瘍性疾患など重篤な疾患との関連も確認されています。これらの結果から、歯周病関連菌は腸内環境を静かに乱し、全身の健康にも影響を及ぼす存在である可能性があると考えています。



■条件: どうぶつ健活を2018年12月～2023年12月に実施した犬の契約のうち、2021年3月～2023年12月に始期を迎える契約が対象。
■歯周病関連菌: アニコム損保の保険金請求データとどうぶつ健活のデータを照らし、歯周病罹患と関係があると考えられる細菌20種。

③保険2.0が目指すもの

これまでの研究から、胃腸炎やアレルギー、慢性腎臓病、心疾患、がんなどのさまざまな疾患は、免疫や腸内環境といった共通する要因が関係している可能性があると考えています。もしこの仮説が正しければ、一つひとつの病気に個別に対応するだけでなく、その背景にある共通の要因に働きかけることで、複数の疾病リスクを同時に低減させることができる可能性があると考えています。

そのために必要な取り組みは、決して特別なものではありません。人では、多様な食事や毎日の歯みがきなどが健康を支える基本的な習慣として定着しています。同様に、どうぶつにおいても、多様な食事は腸内細菌叢の多様性を維持し、口腔ケアは歯周病関連菌による全身への影響を抑えるうえで重要であると捉えています。

こうした「当たり前の習慣」をどうぶつにも広げることが、病気予防の基盤になると考えています。そして、病気になってから支える保険だけでなく、病気にならない社会をつくること、それが、アニコムグループが目指す「保険2.0」です。



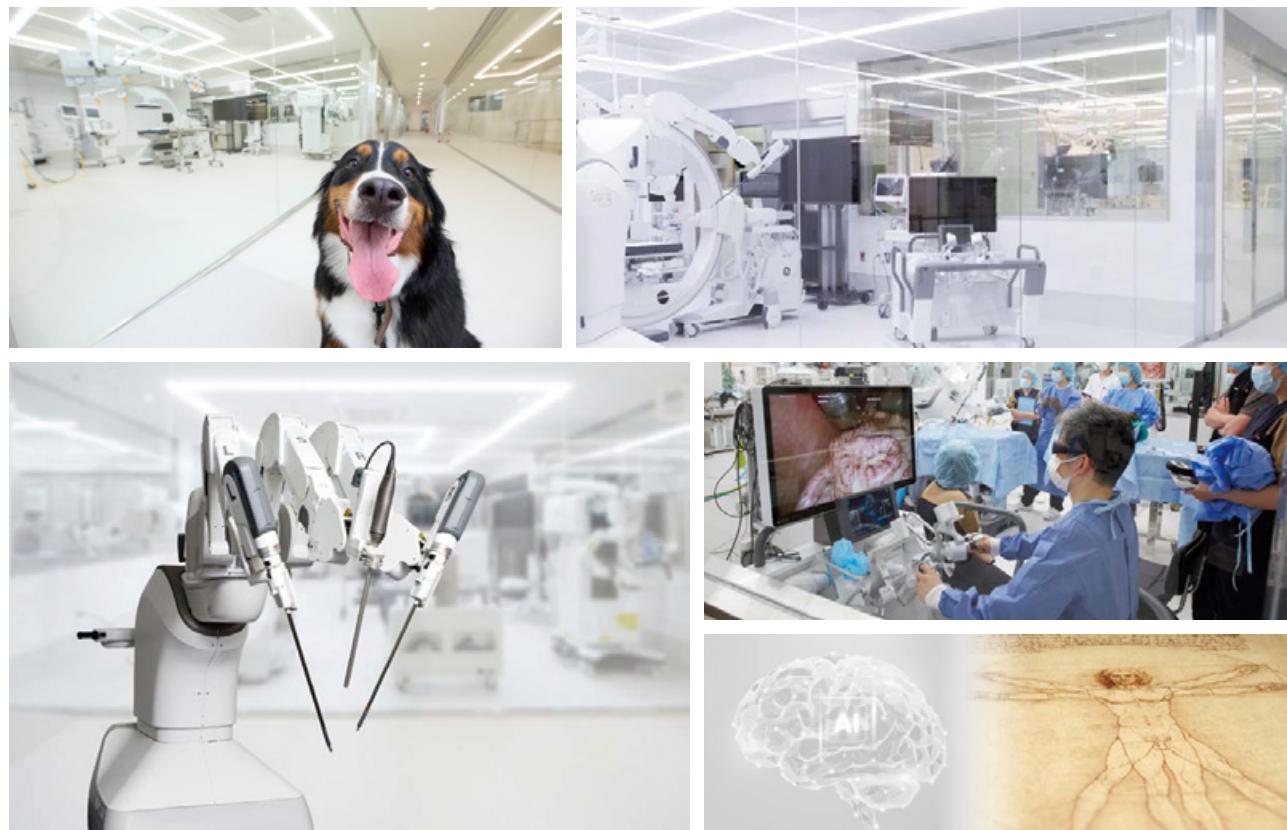
保険3.0 ～最善の医療を支える～

アニコムグループでは、病気にならない社会をつくるのが、これからの保険の重要な役割であると考えています。一方で、予防が進んでも、すべての病気を防ぐことはできません。だからこそ、病気になったときには、誰もがより質の高い最善の医療を受けられる社会をつくるのが重要です。

①医療において、手術は未だ機械化・自動化がなされていない

歴史を振り返ると、多くの産業は機械化や電子化によって生産性を向上させてきました。しかしながら医療、特に手術は、未だ人の技術や経験への依存度が高い領域です。

アニコムグループは、AIとロボティクスが医療分野の次なる生産性向上を担うと考えています。



AIによる診断支援、画像解析、ロボット支援手術などの技術は、獣医療のあり方を大きく変える可能性を持っています。これまで獣医師個人の技術や経験に大きく依存してきた診断や治療の一部について、AIが膨大なデータを解析し、より客観的に判断を支援することで、医療品質の向上につながることが期待されます。

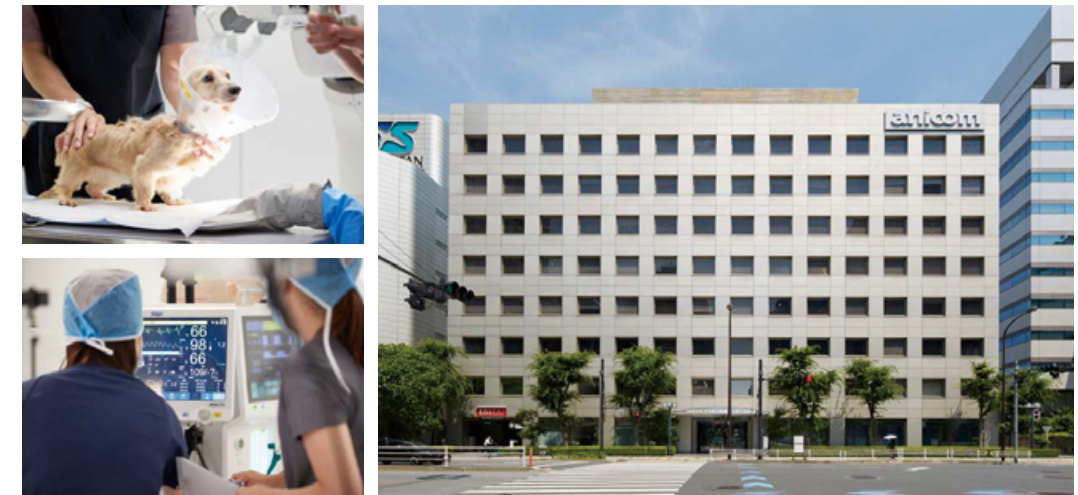
また、ロボティクスの活用は、手術における精密性や再現性を高めるだけでなく、医療の効率化や標準化にも寄与する可能性があります。将来的には、画像情報に加え、力のかかり方や組織の硬さといった触覚情報をAIが学習・活用することで、より高度な医療の発展に寄与することも考えられます。

②「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」という挑戦

アニコムグループが目指す保険3.0とは、病気になった後の治療を支えるだけでなく、最善の医療をより多くのどうぶつへ届ける新しい保険の姿です。その実践の場が、「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」です。

「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」では、最先端の高度医療とAI・ロボティクスを融合し、診断・治療の品質向上や医療の標準化に取り組んでいます。こうして生まれた技術を社会へ広げることで、より多くのどうぶつが最善の医療を受けられる社会の実現を目指しています。

「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」は、保険と医療の共進化を実証し、その成果を社会へ広げるための拠点です。



③保険3.0が目指すもの

私たちが目指す保険は、病気になった後を支えるだけのものでも、病気を減らすことだけを目指すものでもありません。病気になったとしても、誰もが最善の医療を受けられる社会の実現を目指しています。

AIやロボティクスなどの最先端技術を高度医療に取り入れ、診断・治療の品質向上と医療の標準化を進めることで、質の高い医療をより多くのどうぶつへ届ける。そして、どうぶつと飼い主さまがより長く、ともに笑顔で暮らせる社会を実現する。その挑戦こそが、アニコムグループが考える保険3.0です。

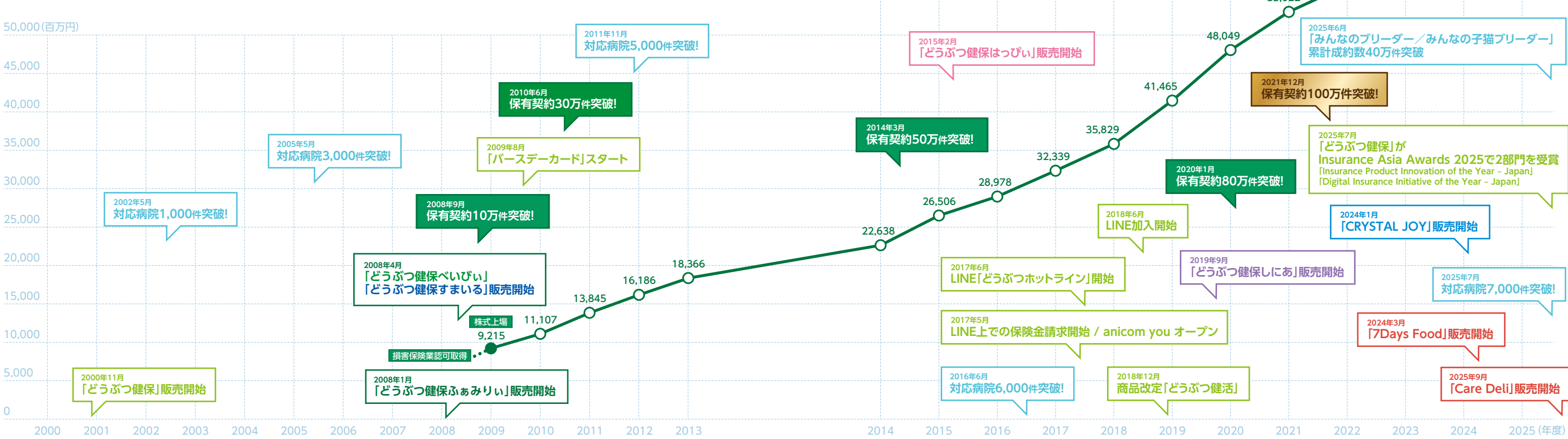


アニコム の歩み

「アニコム」という社名はラテン語で「命、魂」を意味する「anima」からとられた「ani」と「相互理解」を意味する「communication」の「com」を足し合わせ、「命あるものがお互いに理解し、共にひとつの目的に向かって力を合わせることで、これまで不可能とわられていたことが可能になる」という想いがこめられており、この想いが当社の事業活動の原点となっております。

創業の想いを脈々と継承しながら、時代の変化に合わせて自ら変革してきたことで、当社は持続的な成長を遂げてきました。お客様への付加価値の提供と変容する社会課題の解決を追求してきた結果が、現在のアニコムの強みに繋がっています。

■ 経常収益等成長の軌跡を表す指標



沿革

2000年 7月 (株)ピーエスピー設立 2004年 12月 アニコム パフェ (株) 設立 2005年 1月 (株)ピーエスピーから アニコム インターナショナル (株)に 社名変更 2月 アニコム フロンティア (株) 設立 6月 コールセンター開設 7月 近畿支店開設 10月 北海道支店開設 九州支店開設	2006年 1月 保険会社設立準備子会社アニコム インシュアランス プランニング (株) 設立 6月 anicom (動物健康促進クラブ) が 関東財務局へ特定保険業者の届出 8月 中部支店開設 2007年 12月 アニコム インシュアランス プランニング (株) からアニコム損害保険 (株)へ商号変更 保険持株会社の認可 損害保険業の免許を金融庁より取得	2008年 1月 アニコム損害保険 (株) 営業開始 6月 アニコム インターナショナル (株) から アニコム ホールディングス (株) に商号変更 2009年 1月 オンライン加入手続開始 4月 anicom (動物健康促進クラブ) が 関東財務局へ廃業届を提出 2010年 3月 アニコム ホールディングス (株) が 東証マザーズ上場	2014年 1月 現アニコム先進医療研究所 (株) 設立 5月 東北支店開設 6月 アニコム ホールディングス (株) が 東証1部に市場変更 10月 中四国支店開設 2015年 7月 アニコム キャピタル (株) 設立 9月 アニコム先進医療研究所 (株) の 横浜ラボ始動	2016年 4月 セルトラスト・アニマル・セラピューティクス (株) 設立 (アニコム ホールディングス (株) 49%、富士フィルム (株) 51%) 2017年 3月 Hong Kong Anicom Company Limited (香港愛你康有限公司) 設立 2020年 1月 (株) シムネット完全子会社化 2021年 3月 アニコム先進医療研究所(株)がセルトラスト・ アニマル・セラピューティクス(株)から 再生医療事業を承継 アニコム キャピタル(株)の解散を決議	2022年 2月 Hong Kong Anicom Company Limited (香港愛你康有限公司) 子会社化 4月 東証の市場区分の見直しにより、プライム市場に移行 10月 アニコム パフェ (株) がアニコム フロンティア (株) を吸収合併 2024年 3月 (株) フローエンスの株式を取得し、連結子会社化 2025年 10月 「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」開院
--	--	---	--	--	--

創業からの基礎固め期

アニコムは2000年に日本初のペット保険会社として、「予防型保険会社」を作るという想いで創業しました。予防型保険を実現するためには、どんなペットがどんなケガや病気になったかというデータが必要です。そのため、創業からの基礎固め期においては、ペット保険の普及に向けた取組みを行ってきました。家族の証である健康保険証の発行や、その保険証を動物病院の窓口で提示することで保険金請求手続きが不要となる窓口精算システムの普及などの取組みにより、保有契約件数は2018年度末時点で75万件を突破するまでにりました。

第二期創業期

2019年度からの第二創業期においては、ペット保険のさらなる普及と進化を進めるとともに、保険事業以外のシナジー創出事業との相乗効果により、経済的価値と社会的価値を創造するCSV経営を目指しています。創業期に引き続き、ペット保険の普及に努めてきた結果、2025年度時点で保有契約件数は139万件、年間保険金請求件数は480万件を超えるまでに至りました。保険のビッグデータからケガや病気を分析することで、そもそも事故を起こさせない、健康をサポートする予防型保険会社グループへの取組みを加速させていきます。さらに、2025年10月、高度医療を提供する動物病院「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」を開院いたしました。11月からは夜間救急の受付も開始しており、24時間体制で“一頭一頭に寄り添った”診療に対応できる環境を整えています。

アニコム事業展開

ペット保険事業

当社グループの中核事業であり、重点施策として「ペット保険のさらなる収益力向上」を位置付けています。保険商品の独自性・優位性の訴求や、販売チャネルの営業力強化などを通じて、さらなる収益拡大を目指すとともに、損害率改善や契約獲得コストの削減、オペレーション業務の改善により費用の削減を行い、収益力向上を目指します。

健康イノベーション事業

保険と腸内細菌叢のビッグデータをもとに、ペットの健康維持に必要な口腔ケア商品やペットフード等の開発・販売を行っております。本事業自体での収益化と、日々の生活習慣の改善による疾病予防を通じた保険金削減を目指します。

顧客・カルテ管理システム事業

動物病院向けに、患者情報から会計管理まで、病院業務全般をサポートするクラウド型カルテ管理システム「アニレセクラウド」の開発・販売を行っております。本事業自体で収益を得るとともに、業務効率化や経費削減を通じて動物病院の健全な経営を支援しています。

遺伝子検査事業

ブリーダーやペットショップに対して遺伝子検査を提供しています。本事業自体で収益を得るとともに、遺伝子検査の普及によってペットの遺伝病リスクの低減と、防ぐべき遺伝病の撲滅を推進し、保険金削減を目指します。

動物病院事業

グループ病院の拡大・プレゼンス向上・AIを活用した高度動物医療の提供を通じた獣医療の標準化と、医療費抑制効果の発現を目指しています。そのため、今後も規模拡大が必要ですが、M&A結果に左右されるため、足元は規模拡大を狙いつつも、保険事業とのシナジー効果の発揮（保険契約者の送客先とするなど）のために有効活用していきます。

研究開発事業

収益性の向上と保険金削減の両立を目指し、①治らない病気を治すことを目指した再生医療、②個体ごとに最適化された医療の提供に向けた、次世代シーケンサーによる網羅的な遺伝子解析の2軸で、グループ病院や関連会社等の知見を活用しながら事業を推進しています。

マッチングサービス事業

ブリーダーと飼い主候補をつなぐマッチングサイトを運営しています。マッチングサービス事業を通じて、理想の子犬・子猫を飼い主にお届けするとともに、保険、物販等を推奨することで、事業領域の拡大を目指します。

ブリーディング事業

環境エンリッチメントに配慮した子犬・子猫のブリーディング事業を行っています。食の品質や定期的な運動といった、日々の生活の質を重視したブリーディングを行うことで、元気で健康な子犬・子猫を飼い主にお届けします。

私たちアニコムグループでは、ペット保険事業において収集した膨大な疾病データをもとに、ペットの先天性疾患及び後天性疾患へのソリューションの提供を進めてきました。

具体的には、先天性疾患に対する遺伝病撲滅に向けた遺伝子検査事業のさらなる拡充、後天性疾患に対する口腔内環境および腸内環境と健康の関係性に対する調査・分析とこれに基づく健康ソリューションの開発・提供、これまで治らないとされていた疾病への新たな選択肢を提供する再生医療事業など、どうぶつの健康と幸福を支える様々な研究やサービス提供を行ってまいりました。

AIをはじめとする情報技術の発展をこれらの研究やサービスの提供に活かすことで、世の中に新たな価値を提供し、どうぶつの笑顔を増やし続けることを目指します。



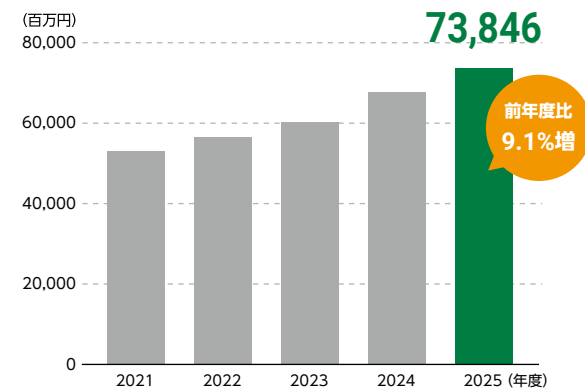
豊富なデータとデータ解析による
新たな価値創出

2030年度ビジョンの実現へ

どうぶつ業界における川上から川下までを
発展的に繋ぐインフラプレーヤーとして無限大の価値を社会に提供する

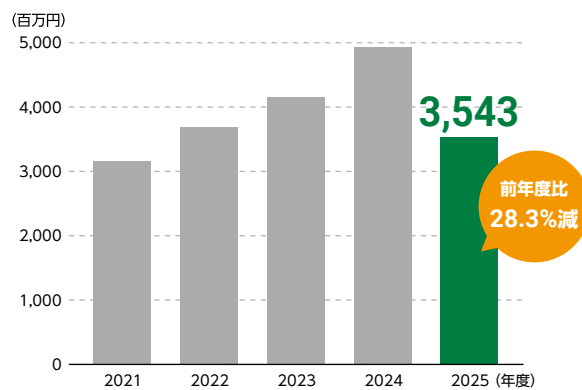
財務ハイライト

連結経常収益

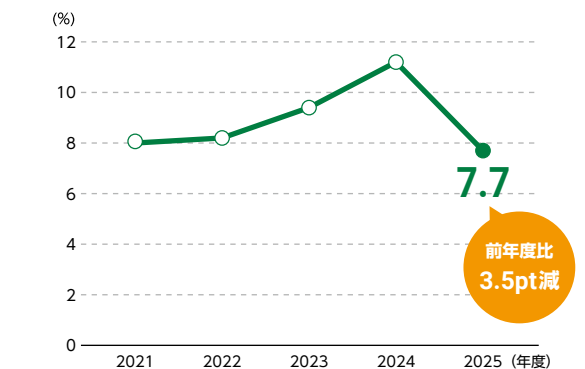


保険事業の契約件数が引き続き堅調に伸長し、機動的な資産運用により資産運用収益も増加しました。保険以外のシナジー創出事業も順調に伸長したことで、最終的な当社グループの経常収益は過去最高となりました。経常利益は減益となりつつも、将来の企業価値向上に向けた事業投資を着実に実行しております。

連結経常利益

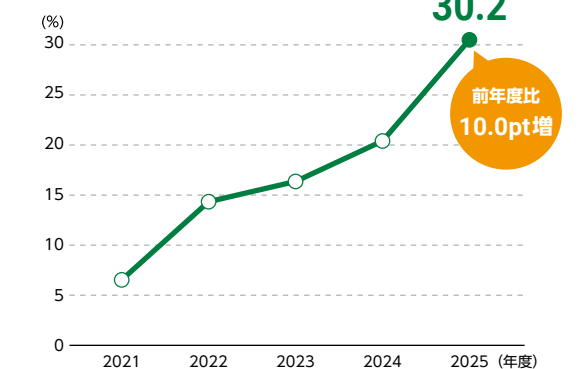


連結ROE



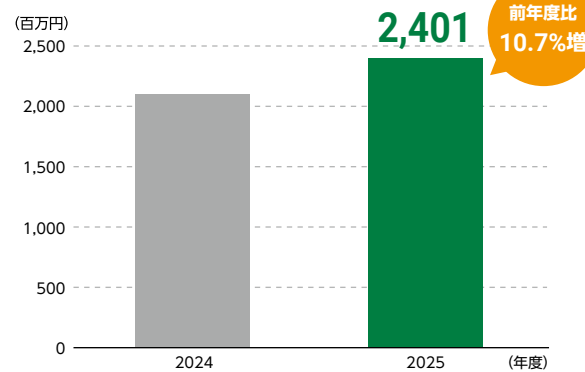
中期経営計画の目標である12%水準を目指し、取り組んでいます。

配当性向



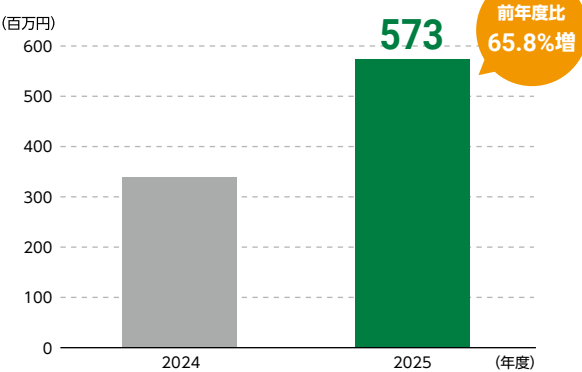
2025年度の配当性向は、中期経営計画の目標水準として掲げた30%を達成しておりますが、今後も維持できるよう取り組んでまいります。

動物病院運営事業 売上高



「JARVIS Tokyo」の開院により大きく伸長しましたが、今後も更なる拡大を目指します。

健康イノベーション事業 売上高



健康ケア商材の拡販により、売上拡大のみならず、ペットの日々の健康と予防に取り組んでおります。

非財務ハイライト

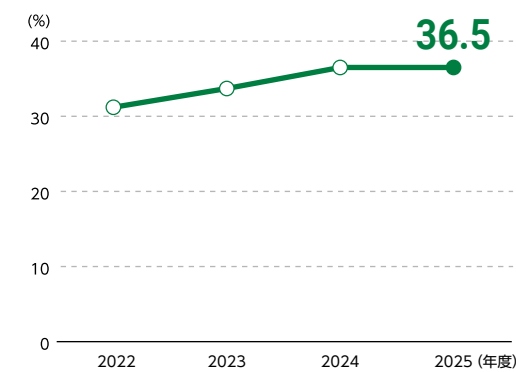
人

ジェンダーギャップの解消に向けて、積極的な女性管理職の登用や男性の育休取得の推進に取り組んでいます。

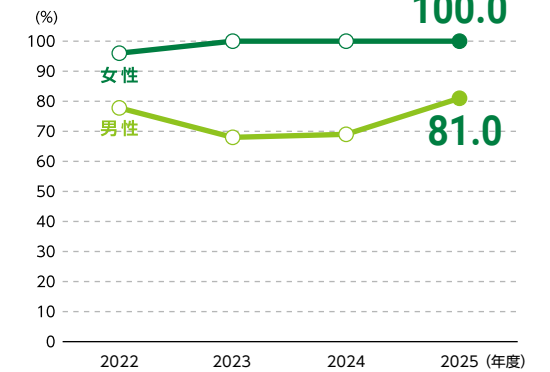
※ 算定対象は当社および連結子会社としています。

※ 管理職の定義は「部下を持つ職務以上の者、及び部下を持たなくともそれと同等の地位にある者」で「役員」を除きます。

管理職に占める女性割合



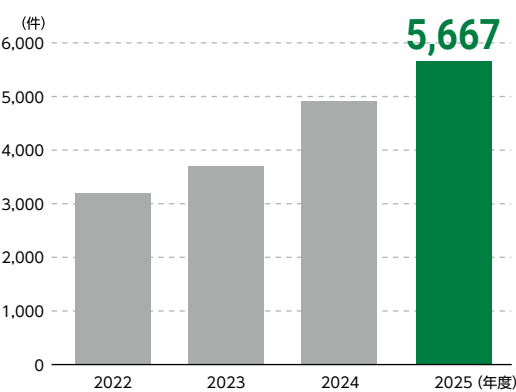
育休取得率(女性・男性)



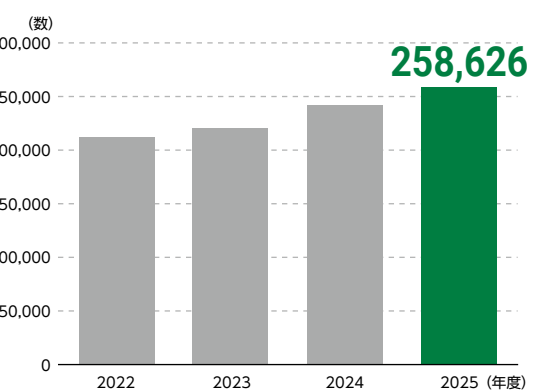
どうぶつ

どうぶつの健康寿命延伸を支える取り組みを行っています。

里親マッチングサイト「hugU」譲渡件数



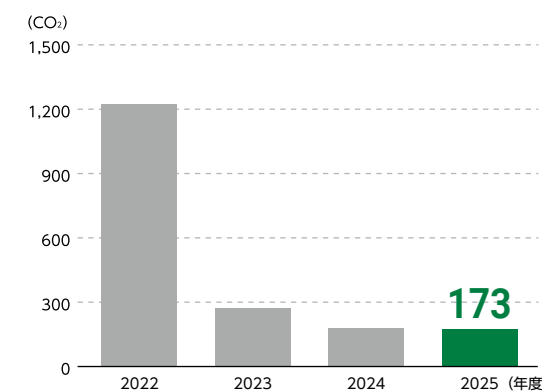
どうぶつ健活(腸内フローラ測定)申込数



環境

カーボンニュートラルの実現に向けて、CO₂排出量の削減に取り組んでいきます。

Scope1+2排出量



- 算定対象は当社及び連結子会社としています。
- データ収集体制が整っていない一部のグループ動物病院については、2022年度までは算定対象から除外、2023年度から病院規模別の平均排出量を算入しています。
- 6.5ガスは算定対象外としています。
- 環境省・経済産業省が公表する電気事業者ごとの「調整後排出係数」を用いて算出しています。
- 環境省・経済産業省が公表する「全国平均係数」を用いて算出しています。
- 2023年度は非化石証書を購入することでScope2の再エネ比率100%を達成しました。2024年度及び2025年度は、再エネ由来電力の利用および非化石証書を購入することにより、また、社用車から排出されたCO₂をJ-クレジットを活用して全量オフセットすることにより、カーボンニュートラルを達成しました。

価値創造プロセス

当社は、経営資源の投入と最適化を通じて、事業戦略を遂行し、社会課題の解決に向き合っています。継続的かつ持続的に価値創造が可能となるサイクルを構築し、ステークホルダーの皆様と好循環を生み出すことで、長期ビジョンの実現を目指します。

Philosophy 経営理念

ani+com=anicom アニコムグループは、それぞれの命が持つ個性の違いをお互いに尊重しあい、分業協力することで、世界中に「ありがとう」を拡大します。

Vision

2030年度ビジョン

どうぶつ業界における川上から川下までを発展的に繋ぐインフラプレーヤーとして無限大の価値を社会に提供する

強み

「アニコム」ブランドの信頼感

- ・保険契約継続率：88.5%
- ・獣医師相談、迷子捜索、オウンドメディアを通じた情報発信
- ・能登半島地震・台湾東部沖地震・ロサンゼルス山火事・ミャンマー大地震

窓口精算システムによる 高い顧客利便性と業務効率

- ・対応動物病院数：7,044病院
- ・保険金請求のうち窓口精算の割合：86.1%

全国をカバーする営業力と豊富なチャネル

- ・ペットショップ/ブリーダー代理店数：5,121店舗
- ・一般代理店数：5,931店舗
- ・ブリーダー、ペットショップ、WEB代理店、保険会社、銀行、地域生協など

豊富なデータとデータ解析による 新たな価値創出

- ・年間480万件を超える保険金請求データ
- ・腸内フローラ測定申込数：約25万件
- ・遺伝子検査検体数：約6万件

多様な専門人材の積極的な登用

- ・獣医師免許保有者：203名
- ・医学/農学/理学/薬学博士、弁護士、公認会計士、アクチュアリー（保険数理士）、弁理士、デザイナーなど

外部環境

- ・コロナ禍における特需的な飼育需要は落ち着きを見せるが、引き続き堅調
- ・大手企業等の相次ぐペット保険業界への参入
- ・動愛法規制強化後、ブリーダーとペットショップの業態融合による流通革命の加速
- ・動物病院の通院頻度の増加と診療費単価の上昇

どうぶつの一生を豊かに健康にするための ビジネスモデル

どうぶつの

ライフステージ

生まれる前～お迎え



遺伝子

- ・遺伝子検査事業

交配 出産

- ・マッチングサイト
- ・精子バンク
- ・ブリーディング支援

ペットショップ

- ・しつけサービス提供
- ・遺伝子検査証明書の発行

生活



日々の暮らし

- ・フード開発と販売
- ・他企業との連携

健康診断

- ・腸内フローラ測定事業
- ・保険新サービス付帯

一次診療（一般診療）

- ・電子カルテ拡販
- ・予約送客事業
- ・一次動物病院運営

ペット保険

お別れ



高度医療提供

- ・再生医療提供
- ・二次動物病院運営

お別れ

- ・ペット霊園紹介
- ・終生飼育施設

社会的価値



- ・心と体の健康
- ・サプライチェーンの透明性の向上
- ・ペットの地位向上



- ・生きがいの提供
- ・地域活性化への貢献
- ・教育機会の公平化
- ・社会機能の強化
- ・健康とウェルビーイング



- ・環境負荷の低減
- ・生物多様性の保全

▶ P.49参照

社会的価値と
経済的価値の
両立を追求

経済的価値

- ・連結経常収益 **73,846**百万円
- ・連結経常利益 **3,543**百万円
- ・連結ROE **7.7%**
- ・株主還元 配当性向 **30.2%**
- ・連結ベースのソルベンシーマージン比率 **217.7%**

※2025年度末時点での数値を記載しています。

ペット保険業界における当社のポジショニング

ペット保険業界の環境変化

近年、日本の15歳未満の人口は減少を続けており、約1,300万人である一方、犬猫の飼育頭数はそれを上回る約1,600万頭と推計されており、ペット業界の市場規模も2024年には1兆9,108億円^{※1}へと伸長しています。

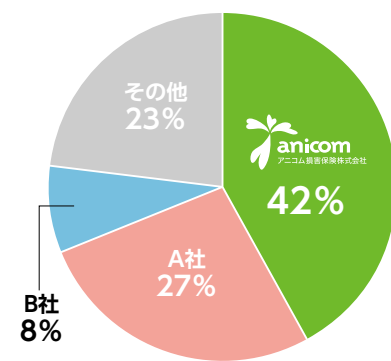
また、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻等を経て人々の不安や孤独が高まる中、人々の不安や孤独を癒す存在としてペットの需要はますます高まっています。その結果、保険市場においてペット保険がとりわけ注目されるようになり、主要な保険会社による参入が相次ぐこととなりました。

このような中、アニコム損保では2009年から2025年まで17年連続で国内マーケットシェアNo.1^{※2}を維持し続けています。その理由は、以下の競争優位性にあると考えています。

※1 出所：株式会社矢野経済研究所「2025年版 ペットビジネスマーケティング総覧」

※2 ペット保険会社のディスクロージャー誌、決算公告、および(株)富士経済2025年 ペット関連市場マーケティング総覧等から当社推計。2023年度から算出方法変更

ペット保険の各社シェア
(保険料ベース(概算))



当社の競争優位性「保険事業を通じて安定的に利益を生み出す仕組み」

顧客利便性・業務効率性

窓口精算システムは人の健康保険と同様、窓口で保険証を提示すれば自己負担分を支払うだけで済む仕組みで、全国の動物病院の半数以上の7,000以上の病院で利用可能です。少額かつ高頻度に利用されるペット医療の特性に合わせ、保険の使いやすさを重視したアニコム損保最大の強みです。もし窓口精算ができなくても、郵送などの手間を必要とせず手続きできる「LINE」による保険金請求を日本で初めて[※]導入したことにより、さらに保険の利便性を高めています。※当社調べ

また、1件ずつ振込手数料・郵送費・査定等のコストがかかる従来型の郵送請求に比べ、窓口精算システムでは、事務コストを大幅に圧縮することが可能です。年間480万件超の保険金請求件数のうち約9割が窓口精算によるもので、高い業務効率性を実現しています。



独自性

アニコム損保独自のサービスとして、ペット保険の契約者に対して、腸内細菌叢測定サービス「どうぶつ健活」を提供しています。当社グループが培ってきた数万件に及ぶ腸内細菌叢の研究データと保険金統計から得られた疾病データをもとに独自指標を作成し、ペットの病気のリスクを判定します。「高リスク」と判定された場合には指定の動物病院で無料健康診断を受診できる[※]、保険業界初、独自のサービスです。※犬、猫のみ対象

また、飼い主さまの日常的な相談にも獣医師等がお応えするサービスを提供しています。アニコムグループには、約150名^{※1}の獣医師をはじめ、愛玩動物看護師、ドッグトレーナーなど、幅広い知識と経験を持つ専門家が所属しています。※2025年3月時点



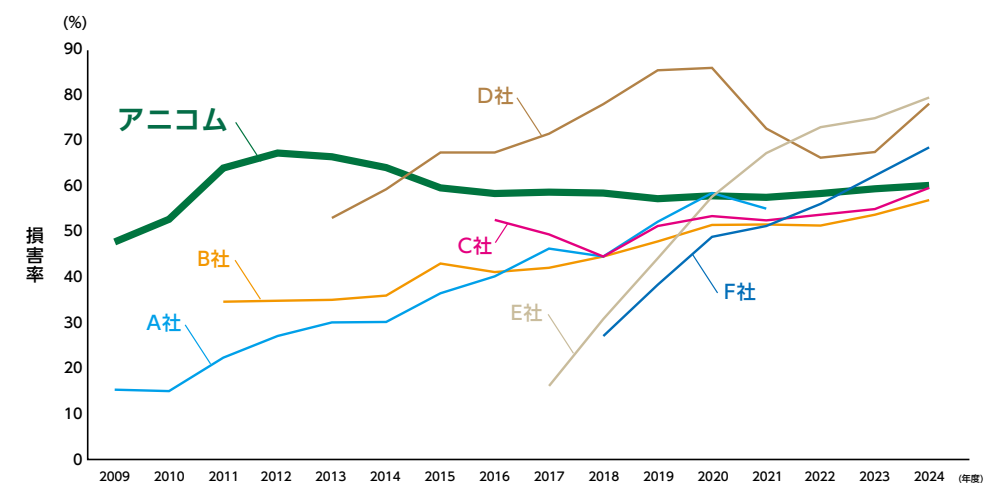
営業力

アニコム損保の主力のチャンネルは新生児を対象とした「NB(New Born)チャンネル」です。全国の主要なペットショップやブリーダーと代理店契約を結んで5,100を超える店舗で募集を行える環境を整え、年間新規契約の約7割をNBチャンネルから獲得しています。また、すでに飼育されている犬、猫、鳥、うさぎ、フェレットを対象とした「一般チャンネル」では、アニコム損保HPでのオンライン契約はもちろん、WEB代理店での販売や、金融機関における窓口販売も行っています。



ペット保険業界の損害率比較

ペット保険各社の損害率が上昇している一方で、アニコム損保の損害率は一定水準を保っています。



出典
各社ディスクロージャー、決算公告
※楽天は損保化により2022年度以降ペット保険単独の損害率が不明のため掲載なし

「予防」を軸としたグループ戦略の推進

生物は無限の環境の変化に対し有限の力で対抗してきました。すなわち、生物は交配により、生命の設計図とも言われるDNAの塩基配列(ATGC)を無限に組み合わせ、子どもに夢を託してきました。

世界最古の法典と言われるハンムラビ法典にも近親交配を禁ずる記載が存在するように、近親交配は太古の昔から、根源的な禁忌行為とされてきました。それにもかかわらず、人類は1万年もの間ペットに近親交配を強い続けてきました。その結果、ペットは遺伝的に脆弱な「一人で生きる力0%、愛し愛される力100%の愛の塊」となりました。

ブリーディングでの最適な交配を行うことにより、遺伝子等の先天的要因で発症する疾病の発症を避け得ようになりましたが、それでもペットの疾病をゼロにすることは難しく、後天的要因に起因する疾病の予防も重要な課題であると考えています。ペットは、若齢からがんを含むほぼすべての疾病にヒトよりも高確率で罹患します。ヒトでは疾病発症の原因として、食事、飲酒、喫煙、人間関係のストレス等様々な交絡因子が挙げられますが、ペットではそのような事情はなく、人より食事の影響を強く受けています。

アニコムグループの研究では、犬の腸内細菌の多様性が低いほど、あらゆる疾病の有病率が高いことが明らかになっています。この結果から、アニコムグループでは、「腸内細菌の多様性が『免疫力』の一部を構成する」と考えています。つまり、多様な食べ物を取り入れ、腸内細菌の多様性を維持・向上させることが「予防」のために重要な要素となります。また、歯周病に罹患すると、翌年の腸内細菌の多様性が低下することが明らかとなっています。「歯周病は万病の元」と言われるように、犬のすべての年齢層ですべての疾病の有病率を引き上げていることは、口腔ケアが疾病予防にとって重要であることを示唆するものと考えます。

このように、アニコムグループでは、保険・医療に関するビッグデータの解析による「免疫の見える化」を通じた、がんを含むすべての疾病における発症原因の探求を進めます。また、歯周病予防による口腔ケアや腸内細菌の多様性向上による腸内ケアを推進することで、免疫力の向上を通じた様々な疾病に罹患するリスクを下げる健康ソリューションを提供いたします。予防を日常の中に位置付けることで重篤な疾病を避け、ペットの健康寿命の延伸を実現することを目指します。



「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」の取り組み

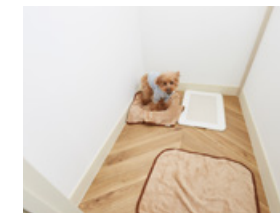
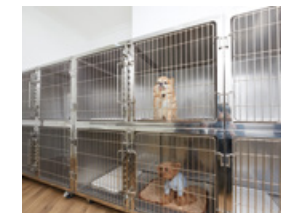
2025年7月、日本で初めて*手術支援ロボットを使用した犬の避妊手術に成功し、獣医療におけるロボティクス活用の新たな一歩を踏み出しました。※当社調べ

24時間365日、どうぶつと飼い主さまに寄り添う医療体制の実現を目指しています。



「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」と連携した「ペットホテル JARVIS Tokyo」を開設しました。滞在中の体調変化にも迅速に対応できる医療体制を整えるとともに、ご希望に応じて健康診断も提供することで、お預かりの時間を健康管理や予防医療につなげる新たな取り組みを展開しています。

選べる3タイプのお部屋(完全個室)



約65m²のドッグラン



※画像の手術用ロボットは、研究用実験機です。

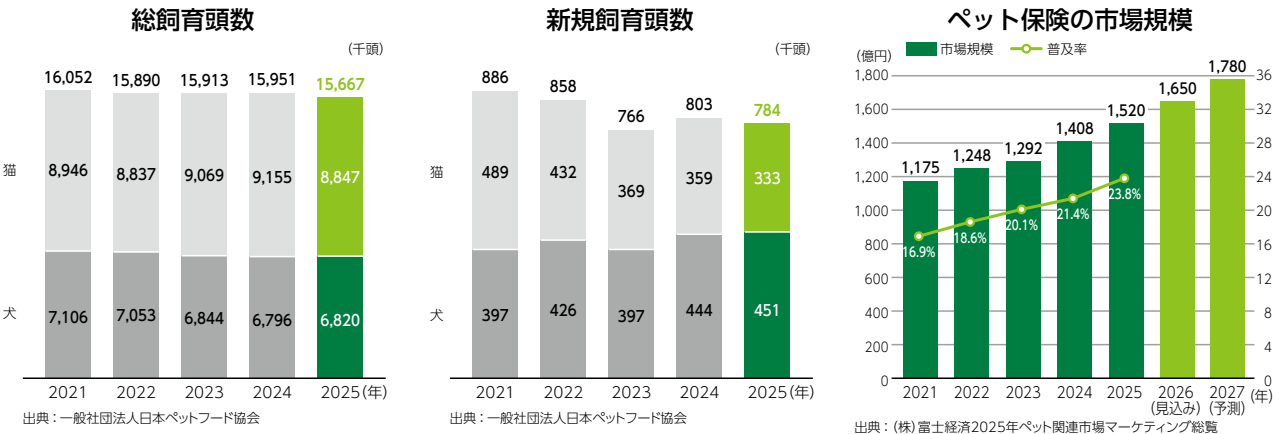
損害保険事業

経営環境および対処すべき課題

〈経営環境等〉

2025年度のペット業界全般は、新規飼育頭数が前年比約2万頭減の約78万頭となりました。一方、ペットの家族化の進展により健康管理を意識する飼い主さまが増えたことなどから、国内のペット保険市場の普及率は23.8%にまで伸長しています。

[犬・猫の飼育頭数の推移およびペット保険の市場規模]



その他、2025年度はペットの長寿化や動物医療の高度化、インフレによる医療費上昇が続き、ペット保険への関心が更に高まる一方、競争激化や損害率上昇により、ネット型保険を中心に事業撤退が相次ぎ、合従連衡が進行しました。当社グループは、そのような環境変化も踏まえつつ、これまで培ってきたグループ全体のリソース全てを用いて、ペット保険事業の経営効率向上、ひいてはペット業界全体の経営効率向上を目指していきたいと考えています。

保険事業

新規・保有契約の状況

新規契約獲得件数は年間で**26.6万件超**
2026年3月末の保有契約件数は**139万件**を突破

アクサダイレクトからの移管影響

2024年12月より移管が開始され、2025年11月に完了
【当期影響】

決算期	移管契約数	移管手数料
2025年3月期	約1.1万件(実績)	約5.5億円(実績)
2026年3月期	約2.2万件(実績)	約11.2億円(実績)
合計	約3.3万件(実績)	約16.7億円(実績)

商品・サービスの拡大

「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、
年間の継続率は**88.5%**と安定して高いレベルで推移

資産運用

環境認識(リスクと機会)

- 保険会社グループとしての財務健全性と収益の安定性を両立するため、資本市場のリスク(流動性リスク、金利リスク、価格変動リスク、不動産リスク、為替リスク、資産集中リスク)等をモニタリングし、年度の投資方針に基づき運用しています。
- 有価証券運用に関しては、当社事業が日本国内を中心とすることを踏まえ、日本国内の債券、株式等を中心としつつ、ROR(Return on Risk)の観点より、市場環境が魅力的であると判断した場合には、為替リスクをコントロールしながら海外資産への投資も実施しています。
- 不動産への投資および事業投資においては、ペット保険および動物医療における知見に基づき、シナジー効果の期待できる案件に選別投資を実施しています。

強み

- 不動産運用では、「人とどうぶつが共生する持続可能な社会の実現」をコンセプトに、付加価値の高いペット共生賃貸住宅の開発、社会貢献活動に関わる施設を提供しています。
- ペット保険における実績データやどうぶつ医療に関わる豊富な経験と人材を活かしてペット医療あるいはペットと暮らす人々にシナジー効果のある共同事業に出資しています。

課題

先行き不透明な市場環境が継続しておりますが、リスク管理を前提としながら運用収益力の向上に取り組んでいます。資産配分の見直しを進めることで、インカム収益を基盤としつつ株式等への投資を拡大し、収益性と安定性の両立を目指します。

取組み

- 産学連携を行っている石川県の国際ビジネス学院内に保有するドッグカフェ、ドッグラン等併設の動物愛護複合施設「しっぽの郷」は、ペット業界の未来を担う人材育成・学校教育の場として活用されています。
- 動物愛護・譲渡施設「ani TERRACE」では、犬・猫の譲渡活動、老犬ホームの運営等を行っています。
- ペット共生住宅「アニコフローラ東中野」は好評にて満室稼働中となっています。

経済価値ベースのソルベンシー規制

ソルベンシー・マージン比率は、保険持株会社グループが通常の予測を超えるリスクに対して、どれだけの支払余力(そなえ)を持っているかを示す重要な指標です。この比率が100%以上あれば、その保険持株会社グループは必要な備えができていて一定の健全性が確保されていると評価されます。

2026年3月期決算からは、「経済価値ベース」による新しい制度(ESR:Economic Solvency Ratio)が始まり、将来に関する保険会社の見積りを反映できるような手法で健全性の評価が行われるようになりました。

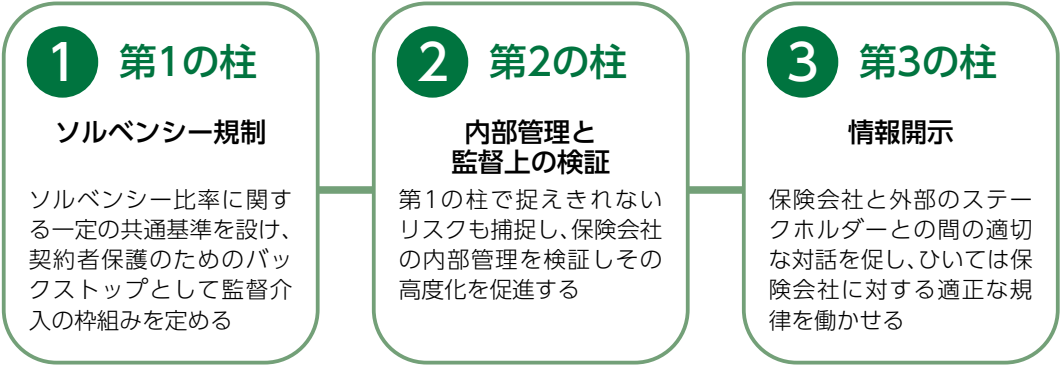
経済価値ベースのソルベンシー規制の概要

新規制導入の意義

- 「経済価値ベース」のソルベンシー・マージン規制を導入する意義は、主に以下の3つの観点から整理されます。
- ◆契約者保護: フォワードルッキングな規制導入により、リスク発現時にも支払能力を確保し、契約者を保護
 - ◆保険会社のリスク管理の高度化: 経済価値ベースに基づくリスク管理の高度化促進
 - ◆消費者・市場関係者等への情報提供: 充実した情報開示により、外部ステークホルダーとの対話を通じ、ガバナンス・規律付け向上

3つの柱の考え方

新規制は、狭義のソルベンシー規制にとどまらない、保険会社の内部管理のあり方も踏まえた多面的な健全性政策について、「3つの柱」の考え方を採用しています。



新規制導入に伴う当社の対応

当社は、新規制の導入を踏まえ、ESRの計測方法を新基準に即したものにへ変更するとともに、ESR水準に応じた経営管理を行ってまいります。

旧ソルベンシー・マージン比率(旧SMR)が会計ベースを起点に支払余力を確認する指標であったのに対し、ESRは経済価値ベースでリスク量と資本余力を把握する指標です。そのため、商品改定、資産運用、新規事業、大型投資等を検討する際には、「リスク量が増えすぎないか」「マージンを使いすぎないか」という視点を踏まえ、リスクと資本のバランスを確認してまいります。

また、ESR水準に加え、所要資本の内訳、主なリスク要因、感応度やストレス時の影響を把握し、経営管理に活用してまいります。

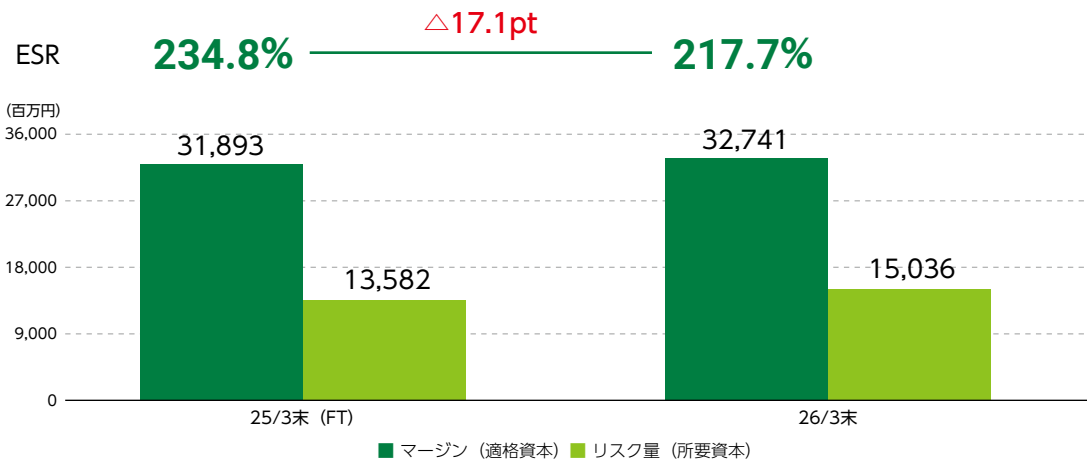
ESRの状況

連結ESRとマージン・リスク量の推移

2026年3月末の当社連結ESRは**217.7%**となり、フィールド・テスト(※)で算出した2025年3月末対比では17.1pt低下したものの、適格資本は増加しました。

早期是正措置の発動基準である100%を大きく上回る水準となっています。

(※) フィールド・テスト: ESR導入に向け、各保険会社が、試行的に経済価値ベースの保険負債等を計算することで、各保険会社の対応状況を把握するとともに、その過程で抽出された実務上の問題点等を導入に向けた検討に活かしていくために実施されるものです。



旧SMRからESRへ、より実態に即した健全性評価へ

旧SMRは、通常の予測を超えるリスクに対する支払余力を確認する行政監督上の指標として用いられてきました。一方で、旧制度では、保険種類ごとのリスク特性や事業モデルの違いが必ずしも十分に反映されない面があり、当社グループのようなペット保険を主力とする保険会社においては、実際のリスク管理状況に比して保守的に表示される側面がありました。

新たに導入された経済価値ベースのソルベンシー規制では、資産・負債を経済価値ベースで評価し、保険リスク、市場リスク、信用リスク、オペレーショナルリスク等をより実態に即して把握します。これにより、保険会社のリスクと資本余力の関係を、従来よりも多面的かつ精緻に確認することが可能となります。

当社グループでは、新制度に基づくESRを通じて、リスク実態に即した資本十分性を把握し、健全性の確保と持続的な成長の両立を図ってまいります。

ESRを活用した健全性管理

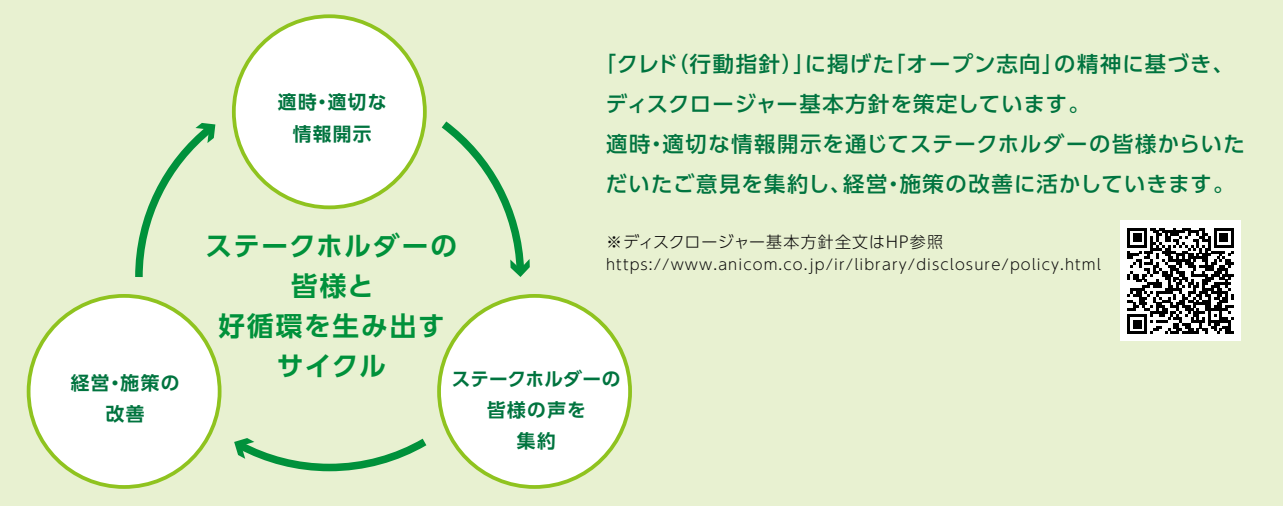
当社グループは、ペット保険を主力とする事業特性上、長期の金利リスクを大きく抱える生命保険会社とはリスク構造が異なり、金利等の資産運用関連リスクに対するESRの感応度は相対的に限定的です。

このため、保険リスク、市場リスク(株式・金利・為替等)、グループ会社に係るリスク等を適切に把握し、必要な資本余力を確保することが重要であると認識しています。当社グループでは、連結ESRについて210%を管理目標として設定し、監督上の基準である100%を十分に上回る健全性を確保しながら、成長投資や株主還元とのバランスを踏まえた資本政策を推進しています。

今後も、ESRの状況を継続的にモニタリングし、財務健全性と資本効率の両立を図ってまいります。

ステークホルダーリレーション

当社は20年超の知見や139万件以上のご契約を有するペット業界のリーディングカンパニーとして、業界の健全な発展に寄与する責務があると考え、その責務を果たすためにステークホルダーの皆様とのエンゲージメントを通じて、企業価値及び社会的価値の向上に努め、人間とどうぶつが幸せに共生する社会の実現を目指します。



	ステークホルダーから期待されること/果たすべき責任	ステークホルダーの期待に応え、責任を果たすための仕組み
お客様	 当社グループは、「常にお客様の視点に立ち、お客様の求めるサービスを創り出すマーケットアウト(お客様の真のニーズにお応えすること)を意識した経営を徹底し、お客様の願いを実現するとともに、新しい価値を創造することに努める」ことを行動指針に掲げ、全役職員一丸となり、その実現に向けまい進しています。	1 お客様の声を経営に活かす取組み 全苦情件数15,550件、 ミニマーケットアウト部会開催回数4回 2 お客様にふさわしい商品・サービスの提供 3 わかりやすい情報の提供 4 迅速かつ適切な保険金のお支払い 5 利益相反の適切な管理 6 お客様本位の業務運営に向けた取組み
株主・投資家	 積極的かつ効果的な情報開示および説明責任を果たし、株主・投資家の皆様との信頼関係を構築すること、情報開示における適時性と公平性を図り、当社の企業価値を正しく反映した適正な株価の形成、社会的評価の形成を図ること、双方向コミュニケーションを通じ、株主・投資家の皆様の声を経営にフィードバックし、企業価値の向上に役立てることを目指しています。	1 機関投資家・アナリスト向け決算・事業戦略説明会(4回) 2 国内外の投資家に対する個別面談(169回)の実施 3 株主総会における株主との対話や、議決権行使に向けた働きかけ 4 WEBサイトやディスクロージャー資料による適切な情報開示
パートナー	 ブリーダー、ペットショップ、動物病院といった様々な取引先企業様は、共に価値を生み出す大切なパートナーと考え、ペット業界をよりサステナブルな業界に変革すべく、協働して動物愛護・動物福祉の向上に取り組むとともに、信頼に基づく公平・公正な取引を推進しています。	1 ブリーディングサポートの提供 2 保険責任者・保険キーパーソン制度 3 公平・公正な取引に向けた監査の実施
従業員	 すべての従業員が人と人との繋がりを尊重し、その繋がりにから多くのことを学ぶことによって自らの成長を日々促進させ、企業の成長および社会の発展に寄与していくことを目的として、ダイバーシティを推進しています。また、常にオープンで公平な教育機会を提供し、個々の能力や適性を尊重しながら互いに協力し、自由に競い合うことで加速度的な成長を遂げることを目的とし、人材教育・能力開発に努めています。	1 定期的な従業員エンゲージメント調査の実施 2 社内報「アニコムダイアリー」「アニコスマイル」の発行 3 カスタマーハラスメント対応基本方針の制定
地域社会	 地域社会の一員として、全国の自治体等と連携・協働し、動物愛護や防災といったテーマで社会課題の解決に向けた取組みを行っています。また、気候変動や社会課題の解決に向けて、カーボンニュートラルへの取組みを推進しています。	1 全国の自治体と連携・協働し、動物愛護等に向けた取組みを実施 協定締結自治体数 5自治体 2 CO₂排出量のネットゼロ達成に向けた取組みの推進 Scope1+2排出量 173t-CO₂